

50年目の今

田丸 あけみ

8月26日(土)四地区まつり(美熊台、長池、公社熊取、東和苑地区主催)に今年もアトムは参加しました。

四地区まつりは、地域の方々に日頃の感謝の気持ちを伝える場でもあり、アトムのOBっ子や元保護者の方など、色んな人達と再会できる場でもあります。

今年は、アトム共同保育所時代の元保護者と十数年ぶりの再会もあり、年月は流れているのに、話をするときを昨日の事のように懐かしく思い出しました。

アトムは1967年、京都大学原子炉実験所職員の、“出産しても働きたい”という願いから誕生しました。

当時、町立保育所は、0,1歳児保育を行っておらず、我が子の預け先がなく、困った原子炉実験所の職員同士で知恵を出し合い、一緒に助け合いながら働き続けようと、原子炉官舎の自宅を開放して共同保育が始まりました。アトムの長い歴史は、ここからスタートしました。

この巻頭の1ページでは、表せないほどの歴史ですが、少しだけ紹介すると、開所当時、子ども達の世話は、仕事が休みの職員(親)が保育を担い、離乳食も持ちまわりで家から持参し、自分の子も他の子も一緒に保育をしていたそうです。その後は、保育士を雇い、原子炉職員の子どもではない子も入所し始めました。そして、子ども的人数が増えてきたため、場所を西部官舎内に新築移転し、3年後にはプレハブを増築し、1989年には二歳児保育を自主保育事業として開始し、資金稼ぎの為にバザーや惣菜販売等をしたり、無料でもらえる物があると聞けば遠くても足を運び、と、アトムに関わる大人が、幾度と話し合いを重ね、一つ一つ汗水を流しながら保育園を作ってきました。無認可という事で、資金集めには苦労し、保育料はとて高く、職員の給料はとて低かったのですが、そうしなければ、アトムを存続できませんでした。

私は、1996年からアトムで働き始めたのですがその頃は、プレハブ増築による返済と、認可に向けての資金集めという目標が大きくありました。

そして、2003年、認可保育園となりました。

認可されてしばらく経ってからは、姉妹園のつばさ共同保育園を開園することになり、力を貸してくれた保護者の方がいました。そして、3年前のアトム園舎建て替え時も保護者のたくさんの協力がありました。

人は、一人ではできないことも、みんなで考え、知恵を出し合ったら、困難なことも乗り越えられる。私がアトムと出会い教えてもらった事の一つです。

これまでアトムを支えてきてくれた人たちがいて、今がある。そして、今いる私たちが次の世代へとバトンを繋いでいく。

先日、アトムの現保護者と話しをする中で「私が、子育てにしんどくなっている時に先輩保護者から伝えてもらった言葉で心が救われた。だから、次は私が、後輩の保護者に伝える番」と話ししてくれました。

“共同保育園”に込めた願いは、子どもを産んでも働きたいと願う親と、そんな親の思いを受け止める職員が、お互いに知恵と力を出し合って共に子どもを育てていける保育園にしたいとの強い思いが込められています。

アトムは、今年で50年目です。今も昔も変わらない“人と人のつながり”を大切に子どもを真ん中にしながら、日々のやりとりをこれからも丁寧に重ねていきたいです。